

『命は有限』

福島県

福島県立平工業高等学校

鈴木 遥也 すずき はるや

私は、この講話を聞くまで「命」というものを深く考えたことがなかった。しかし、この講話を聞いて「命」への見方や考え方が変わった。

今回この講話で、交通事故で被害にあった親御さんのお話を聞くことができた。それは、車との衝突により息子さんが亡くなってしまったというものだった。もし私が親で息子がこのような交通事故にあったらなかなか立ち直ることはできないと思う。実際に被害にあった親御さんは今でも事故現場に立ち寄れず、体調を崩し仕事を辞めたと聞いた。私は、このたった一瞬で夢や希望、期待を失ってしまうのだと感じた。そのような出来事があってもこれまで通りの普通の日常を過ごしていかなければならない。

息子さんは小学生で、これからたくさん楽しいことや経験していくことがあったと思う。この時、私は胸が締め付けられるような感覚になった。亡くなってしまったらもう戻ってくることはない。それだからこそこの講話をきいて命の大切さや尊さ、重みなどを再確認することができた。

たまにテレビやニュース、新聞などで交通事故での死亡事故が起きたということを目にする。加害者、被害者の両方が気を付けていたつもりで行動していても事故が起きるときがある。それをどのようにしてなくしていくかを考えていくことが大切になっている。交通事故が起きてしまったら誰もいい思いはせず、むしろ不利益ばかりだ。私は、通学の際自転車を使用している。学校の決まりでヘルメットの着用が義務となっている。私の不注意で歩行者を引いてしまうことや、安全面を無視して走っていると自動車に引かれてしまう可能性だってあるだろう。人の命を奪う行動はやってはいけないため、十分な注意で通学したいと思う。

私は、交通事故に限らず人が亡くなってしまいうような事故や事件がなくなっていくことを願っている。今は勉強と部活を両立しているため、自分のことしか正直考えていない。しかし、いずれ他人のことを深く考える必要があるときが来るだろう。そのためにも、自分の命はもちろん、他人の命も大切にしていけたらと思う。人間は社会的な存在であり、他人とのつながりや助け合いが重要である。自分も将来はさまざまな人に命の大切さ、尊さを教えられるようなひとになりたいと感じた。

いつもなにげなく好きなことをやって生きている私にこのような講話を聞かせてもらったおかげで自分をもう一度見つめ直すことができた。命はなにかのショックを与えてしまうと一瞬でなくなり、誰も望まない死の道へ行ってしまうという現実を見せられた。そのため講師の方は、

「自分が死んでしまうと誰も良い思いはせずただただ悲しい思いになってしまう。しかも

悲しい思いをするのは、自分ではなく、他人であること。そのため、時間と夢を大切にしておきたい。」

とおっしゃっていた。時間があれば好きなことができる。そのため、いろいろなことにチャレンジしようとおもった。またこの講話を聞いて今生きていることに感謝しようと思った。育ててもらっていること、好きなことをやれていることなどすべてが奇跡だ。この感謝を忘れず生活していこうと思う。そして、交通事故や不慮の事故がなくなり、死者が増えていかないことを望んでいる。